

<2024年度>

第5回理事会議案書

2024年 8月 27日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2024年度 第5回理事会 議事次第

一般社団法人 全国 鐵 構 工 業 協 会

場 所：~~鉄鋼会館~~ 811号室

⇒ 全構協 第1会議室

日 時： 2024年8月27日（火）
~~12:00~~ ⇒ 13:00～17:00

1. 開会の辞

2. 定足数確認報告（定款第36条）

3. 会長挨拶

4. 前回理事会議事録の確認

5. 報告事項

- (1) 取組み課題及び委員会等検討体制について ----- [理 24-5-報 1] (p3-)
- (2) 鉄建協との要望活動について ----- [理 24-5-報 2] (p5)
- (3) 賛助会員との懇談会実施について ----- [理 24-5-報 3] (p6-)
- (4) 委員会等活動状況報告
 - ① 技術委員会 ----- [理 24-5-報 4①] (p9-)
 - ② 運営委員会 ----- [理 24-5-報 4②] (p13)
 - ③ 人づくり研修 WG ----- [理 24-5-報 4③] (p14-)
 - ④ 函面問題対応検討 WG ----- [理 24-5-報 4④] (p17)
 - ⑤ 一次加工品質管理 WG ----- [理 24-5-報 4⑤] (p18)
- (5) 青年部との意見交換会について ----- [理 24-5-報 5] (p19)
- (6) 特定技能外国人材対応について ----- [理 24-5-報 6] (p20-)
- (7) 中国支部からの要望について ----- [理 24-5-報 7] (p33-)
- (8) その他（管理技術者等の変更管理<全鉄評関連>等） ----- [理 24-5-報 8]

6. その他の定例報告事項

- (1) 構成員登録状況 ----- [理 24-5-他 1] (p36-)
- (2) 着工面積と推計鉄骨需要量 ----- [理 24-5-他 2] (p41)
- (3) 2024年度主要会議日程 ----- [理 24-5-他 3] (p42)
- (4) 支部報告 ----- [理 24-5-他 4] (p43-)

7. 閉会の辞

以上

報 告 事 項

理事会で取り組むべき課題(理事<支部長>からの提案内容整理)

	活動優先順位	既提案に包含	対応案(検討体制)				小委員会	要望(個別検討)	合計		
			委員会	常設(委)で対応	常設(委)フォロー						
1 北海道	竹原理事	1 適正価格維持に向けた活動 2 DXの推進(メーカーとの連携) 3 リモート講習会(各資格等)						3			
			2 東北	三浦理事	1 輸入鉄骨 2 経産省、国交省との関係強化					2	
					3 関東	安達理事					
4 北陸	前田理事	1 運送効率化 2 副資材・エネルギー費用等の転嫁 3 労働力不足への対応 4 輸送問題 5 S造化 6 下請代金支払の適正化						6			
		5 中部	稲垣理事	1 メディア活用による知名度向上 2 主任技術者専任対応					2		
				6 近畿	妹尾理事	1 鉄骨需要調査、生産量確保 1 共済事業の充実(活性化) 2 S造化 3 外国人材 4 (鉄骨製作)規制への対応					
		8 四国	登尾理事			1 JASS6改定				1	
						9 九州	岩永理事		1 特定技能 2 S造化 3 図面問題		
									8	0	0

2024-2025年 取組み課題<委員会等活動テーマ>検討

※取組み課題選定の考え方 ⇒ 課題を着実に仕上げる（具体的な成果を上げる）ため、優先順位を付け絞込みを実施（選択と集中）

区分	取組み課題	取組み（活動）内容	提案		優先順位 (位置付け)		検討・取組み 体制					備考
			三 役	支 部	重 点 課 題	フ ォ ー ム 課 題	情 報 収 集	委員会等検討体制			改 善 要 望	
								委 員 会	常 設 委 員 会	W G		
中期ビジョン 委員会 提言課題	ICT, IOT, DXの促進	・ICT, IOT, DX(CAD, BIM含む)に関わる情報の収集、業務の生産性向上検討 ・図面問題対応検討WGとの連携、日建連BIM部会との情報共有 ・機械メーカー等との連携による生産性向上施策の検討（北海道支部）	○	○								
	S造の推進	・S造シェア維持、SDG's(グリーンスチール・低CO ₂)推進に向けた情報収集、関係先(鉄連、JSCA等)との連携・意見交換、組合・構成員への情報展開	○	○								
	人材教育と資格手当の連動	・個人毎のキャリアパスの作成に関わる検討 ・離職率の低下を防ぐ方策の検討	○									
	原価管理の徹底	・原価計算を構成員全社実施 ※まずは、中小ファブを対象とし、財務・原価管理の基礎知識を付与	○									
	快適職場認定制度 (労働環境整備)	・全構協版(型)快適職場認定制度の設立 ※厚労省・日建連策定内容を参考に、全構協版の制度の立案・構築 ※快適職場⇒労働環境(暑さ対策、安全)・働きやすさの確保	○									
継続課題	人材育成	・既存研修(人づくり研修・次世代経営研修)の継続有無検討(2025年度)	○									
	一次加工品質管理	・Fabと一次加工業者との契約状況及び一次加工の品質管理体制の実態把握 ・品質管理に必要な条件や品質管理能力の実証方法の検討、協力要請・認知活動	○									
	JASS6改訂への対応	・JASS6改訂に向けた要望・提案とりまとめ ・要望提案先の対外委員会(AIJ日本建築学会)との対応	○	○								
	業界の地位向上に向けた発信強化(業態調査)	・発信強化に向けた業界動向・実態の把握(※調査内容・項目の精査・検討) ・回答率向上(精度向上)施策の検討 ・メディア活用等による知名度向上施策の検討(中部支部)	○	○								
	鉄骨需要調査、生産量確保	・国内外の生産状況が変化中、国内需要の確保、適切な需給環境の維持に向けた、現状把握と施策の検討(近畿支部)		○								
	図面問題対応検討	・地方展開は継続課題 ・「手順・ポイント」をまとめたマニュアル作成(九州支部)	○	○								
	物流・輸送問題への対応	・運送の効率化・コスト削減(受渡条件等見直しによる効率化)(北陸支部) ・置場等を活用した小運搬方法の検討(北陸支部)	○	○								
	共済事業の充実	・共済制度について、会員のメリット(デメリット)が不明確 ・共済の意義を明確にし、啓発活動の方向性を検討(中国支部)		○								
	JSCA等との意見交換会対応	JSCA等、構造技術者(団体)との産・学の見聞交換会の開催		○								
新規提案	価格・費用への対応	・適正価格維持(秩序ある行動)に向けた啓発活動(北海道支部) ・副資材、エネルギーコストの価格転嫁(北陸支部)		○								
	労働力不足への対応	・熟練労働者の不足が深刻な課題となっている中で、いかに若い人の鉄骨への関心を高めるか、複雑なディテール部の機械化等の課題の検討(北陸支部)		○								
	輸入鉄骨	・鉄骨需要量が減少する中で、海外鉄骨の流入拡大についての調査・対策検討(永井会長)(東北支部)		○								
	行政(経産省、国交省)との関係強化	・両省との関係のあり方について調査を行い、連携の在り方について検討する(東北支部)		○								
特定技能外国人材対応	・今後、明らかになってくる業務内容(範囲)に対応した組織的な対応策の検討 ※外国人材の管理業務(管理範囲)は不明だが、高い負荷が想定される	○	○									
改善要望	リモート講習会	・資格関連の講習会について、移動負担を軽減するため、リモート講習会を検討(北海道支部)		○								
	下請代金支払の適正化	・代金支払いの実質的な適正化(立替負担の軽減)に向けて、着工一時金、検査完了時点での出来高査定等の施策の検討(北陸支部)		○								
	専任の主任技術者	・専任の主任技術者の対応(配置)について ※工場内作業と現場工事の費用を区分し、現場工事のみ対応(中部支部)		○								
	規制への対応 (鉄骨製作に関わる)	・触法性が高いが対応出来ない事項、今後官庁が規制するであろう事項等について調査研究を行い、公表等具体的な活動に繋ぐ(中国支部)		○								

2024年度 鉄建協との要望活動(報告)

1. 実施日程 2024年7月17日(水)～8月22日(木)
2. 要望先 (計18社)
 - (1) 設計事務所(5社) NTTファシリティーズ、日建設計、三菱地所設計、日本設計、久米設計
 - (2) ゼネコン(9社) 西松建設、前田建設工業、大林組、戸田建設、清水建設、東急建設、大成建設、竹中工務店、※鹿島建設(8/22(木)に訪問予定)
 - (3) 高炉メーカー(3社) JFEスチール、神戸製鋼所、日本製鉄
 - (4) 他団体(1団体) 日本建築構造技術者協会(JSCA)
3. 要望活動メンバー 全構協 永井会長・大竹副会長・板垣副会長・小貫専務他事務局5名
鉄建協 深沢会長他理事、運営委員、事務局 (全構協のべ31名)
4. 要望項目
 - (1) 鉄骨工事の契約・検収について
 - (2) 鉄骨工事の工場製作工程・鉄骨製作図問題について
 - (3) 働き方改革への対応について
 - (4) その他諸問題について(ミルシートへの工事名記載省略・ミルシートの電子化)

5. 今年度の要望活動でのトピック

本年度の要望では、例年の内容(項目)に加え、特に鉄骨製作図問題について多くの時間を使い議論を交わした。設計事務所はもちろん、ゼネコンでも大きなウエイトを占めたので以下報告する。

(1) 図面問題

設計事務所 鉄建協・全構協(以下、当方)から、図面の決定遅れ・修正について、実情を述べ、GCに対して働きかけを強めていく旨を訴えたのに対し、要望先(先方)の理解を一定程度は得られ、追加請求・工期の適正化(延長)に対し、GCへの働きかけについても、特に異論は出なかった。

ゼネコン 当方に歩み寄る姿勢が、以前よりも強くなったと感じられる。先方側でも発注者に対し、『カネと工期をもらって来いと言っている(発言ママ)』との風潮、『国からも下請としっかり協議することが求められており..』等々、追加費用が発生することを、『総論』としては理解している様子。

(2) 状況変化

今年の4月から、2024年問題が業界前提に適用されることとなり、ゼネコンの状況(姿勢)にも変化がみられてきた。特に、人材(入職者)の確保がゼネコンにとって喫緊の課題となりつつある。発注者に主張すべきを主張し、図面に限らず『決定遅れ・修正』については、工期(の延長)を確保しなければ4週8閉所等々にも支障をきたし、結局は人材確保問題に繋がっていく、この課題は共通であるため、当方が論理的な訴えをここ1年で始めた鉄骨製作図問題にも、より一層、取り組む姿勢(歩み寄る姿勢)が見られてきたと考えられる。

以 上

【理24-5-報3】

赤字・青字は全構協用のみに記載

賛助会員様・全構協 懇談会 議事次第

(一社)全国鐵構工業協会
場所:鉄鋼会館 801号室
日時:2024年9月24日(火)
15:00~16:45

【冒頭 事務連絡等】

- ・本日のスケジュール *14:55~15:00*
- ・出席者ご紹介(出席者名簿)

1. 全構協 永井会長挨拶 *15:00~15:05*

2. 懇談会

(1)全構協の概況、ファブ業界の状況 *15:05~15:20*

- ① 足元のファブ業界の動向
- ② 全構協の概況
 - ・鉄骨推定需要量・構成員数
 - ・2024年度事業計画

(2)各地区の概況 *(各支部長等 約2分/人) 25分*
・各地区の状況、各地区の活動 *15:20~15:45*

(3)賛助会員各企業様との意見交換 *(55分) 15:45~16:40*

3. 閉会の辞 *大竹副会長 (5分) 16:40~16:45*

【備考】

17:00 から、802号室にて懇親会を準備しております。(18:00頃まで)
併せてご出席を、宜しくお願い申し上げます。

取扱注意

2024年度 賛助会員・全構協 懇談会 出席者名簿 (全構協手持ち)

2024年9月24日 於：鉄鋼会館

15:00～懇談会(801) 17:00～懇親会(802～804)

35		本 社	出 欠		出 席 者			
No.	略称		懇談会	懇親会	姓 名	セイメイ	部 署 名	役 職 名
1	(株)アマダマシナリー	神奈川	○	○	宮田 康一	ミヤタ コウイチ	切削構機営業部	
2	伊藤忠丸紅住商テクノスチール(株)	東京都	○	○	未廣 浩司	スエヒロ コウジ	建築建材部	部長代行
3	岩上鋼材(株)	東京都	○	○	唐川 吾郎	カラカワ コロウ	東京本社	専務
4	エムエム建材(株)	東京都	○	○	吉田 隆	ヨシダ タカシ	第一営業本部	副本部長
5	王子製鉄(株)	東京都	×	×				
6	小野建(株)	福岡県	○	○	小野 将	オノ マサシ	建材部	部長
7	(株)神戸製鋼所	東京都	○	×	松井 和真	マツイ カズマ	厚板営業部	担当部長
8	J F E 建材(株)	東京都	○	○	伊藤 準	イトウ ヒトシ	建築建材商品営業部	部長
9	J F E 商事鉄鋼建材(株)	東京都	○	○	梅本 武	ウメモト タケシ	建築建材部	部長
10	J F E スチール(株)	東京都	○	○	天野 俊章	アマノ トシアキ	建材センター 建材営業部 建築・プロジェクト室	部長
11	神鋼ボルト(株)	千葉県	○	○	楠瀬 吾郎	クスノセ ゴロウ	営業部	部長
12	新東工業(株)	愛知県	○	○	田中 充	タナカ マコト	サーフェスティックカンパニー営業グループ	担当員
13	(株)スノウチ	千葉県	○	○	田島 和彦	タジマ カズヒコ	営業本部	取締役
14	住友生命保険相互会社	東京都	○	○	吉田 威	ヨシダ タケシ	公法人部	上席部長代理
15	(株)セイケイ	栃木県	○	×	浅田 陽介	アサダ ヨウスケ	営業本部	課長
16	大東精機(株)	兵庫県	○	○	植村 道治	ウエムラ ミチジ	営業本部 東日本統括部	部長
17	大同生命保険(株)	東京都	○	○	大西 太造	オオニシ タイソウ	業務本部	部長
18	ダイニツカ(株)	東京都	○	○	岡部 祥司	オカベ ショウジ	本社	常務取締役
19	大日本塗料(株)	大阪府	○	○	眞鍋 育功	マナベ イクノリ	構造物塗料事業部 マーケティンググループ	グループ長
20	(一社)鉄骨建設業協会	東京都	×	×				
21	(株)トーネジ	茨城県	○	○	古藤 和生	コトウ カズオ	営業部	次長
22	日鉄エンジニアリング(株)	東京都	○	○	鹿山 嘉男	カヤマ ヨシオ	鋼構造営業部 免制震デバイス営業室	シニアマネジャー
23	日鉄建材(株)	東京都	○	○	粟田 大介	アワダ ダイスケ	プラスチック営業部プラスチック室	室長
24	日鉄物産(株)	東京都	○	○	茂木 勇	モギ イサム	建材営業部建 建築建材課	課長
25	日鉄バルテック(株)	大阪府	○	○	緒方 秀記	オガタ ヒデキ	営業部 東京営業所	所長
26	日鉄溶接工業(株)	東京都	○	○	島崎 陽一	シマザキ ヨウイチ	営業本部	営業副本部長
27	(一社)日本鋼構造協会	東京都	×	×				
28	日本製鉄(株)	東京都	○	○	安藤 毅	アンドウ ツヨシ	厚板・建材事業部 厚板・建材営業部 建築建材室	室長
29	日本ファスナー工業(株)	大阪府	○	○	鈴木 初	スズキ ハジメ	ハイテン事業部	課長補
30	(一財)日本溶接技術センター	神奈川	○	○	阿南 睦章	アナン ムツアキ	---	常務執行理事
31	(一社)日本溶接協会	東京都	○	○	水沼 涉	ミズヌマ ワタル	---	専務理事
32	(一社)日本溶融亜鉛鍍金協会	東京都	○	○	菊川 美仁	キクガワ ヨシヒト	---	理事長
33	阪和興業(株)	東京都	○	○	和田 寛之	ワダヒロユキ	鉄構営業部	部長
34	フルサト工業(株)	大阪府	○	○	有本 剛士	アリモト ゴウシ	北海道・東北・首都圏地区担当	営業統括部長
35	(株)丸杉	岐阜県	○	○	吉田 雅俊	ヨシダ マサトシ	東京支社 営業部	部長

賛助会員様・全構協 懇談会 座席表

2024年9月24日 15:00 於:鉄鋼会館 801号室

北海道支部長
竹原 慎 雅

関東支部長
安達 次 雄

北陸支部長
前田 正 美

中部支部長
稲垣 法 信

近畿支部長
佐野 勝 也

中国支部長
妹尾 一 人

四国支部長
尾 昌 弘

九州支部長
岩 永 洋 尚

〒

〒

〒

〒

〒

〒

〒

相 談 役
米 森 昭 夫

副 会 長
大 竹 貞 明

会 長
永 井 敏

副 会 長
坂 垣 昌 之

専 務 理 事
小 賀 理 武

〒

〒

〒

〒

〒

〒

〒

(株)アマダマシンリー
宮田 康一 様
伊藤 忠丸 紅住 尚テック/スチール(株)
永廣 浩 司 様

大同生命保険(株)
大西 太 造 様
大東精機(株)
植村 道 治 様

ダイニツカ(株)
岡部 祥 司 様
大日本塗料(株)
眞鍋 育 功 様

(株)丸杉
吉田 雅 敏 様
フルサト工業(株)
有本 剛 士 様

岩上鋼材(株)
唐川 吉 郎 様
I.I.I.I.建材(株)
吉田 隆 様

(株)セイケイ
浅田 陽 介 様
住友生命保険相互会社
吉田 威 様

(株)トーネジ
古藤 和 生 様
日鉄エンジニアリング(株)
鹿山 嘉 男 様

阪和興業(株)
和田 寛 之 様
(一社)日本溶接垂鋸鍍金協会
菊川 美 仁 様

小野建(株)
小野 将 雄 様
(株)神戸製鋼所
松井 和 貞 様

(株)スノウチ
田島 和 彦 様
新東工業(株)
田中 充 様

日鉄建材(株)
栗田 大 介 様
日鉄物産(株)
茂木 勇 様

(一社)日本溶接協会
水沼 涉 様
(一財)日本溶接技術センター
阿南 隆 章 様

J F E 建材(株)
伊藤 雄 雄 様
J F E 商事鉄鋼建材(株)
梅本 武 雄 様

神鋼ポルト(株)
楠瀬 百 郎 様
J F E スチール(株)
天野 健 吉 様

日鉄ポルト(株)
緒方 秀 記 様
日鉄溶接工業(株)
島崎 陽 一 様

日本フラスナー工業(株)
鈴木 初 雄 様
日本製鉄(株)
安藤 敏 雄 様

専務部長
平井 道 雄 様
無線 1 本

技術部長
新村 洋 行 様
無線 3 本
機務部長
滝本 英 二 様

機務部長
大原 弘 光 様
無線 1 本

マイク
有線 8 本
無線 5 本
飲み物(ペットボトル水) 持込
(55本)

〒

【理24-5-報4①】

〈 2024～2025 年度 〉

第 1 回 技術委員会 議事録案

1. 日 時 2024年8月2日(金) 13:30～17:15
2. 場 所 全構協 第一会議室+Web (Zoom)
3. 出席者 岩永委員長、船山副委員長、西山副委員長、
成澤、今泉、和田、谷本、川野 各委員
Web 参加：佐野委員、山本委員 (冒頭のみ)
(事務局) 平井、新村、瓜生、安藤

4. 議事次第

資料No.

1) 委員長挨拶及び委員紹介

①2024 年度～ 2025 年度 委員会名簿 No. 1

2) 委嘱状交付

3) 技術委員会での検討事項について

①JASS6 及び関連指針の次期改定について No. 2

②溶接施工 WG ; 検討経緯と今後の計画・予定

4) その他

①次回開催について

5) 委員長講評

5. 議事要旨

1) 委員長挨拶

岩永委員長より、皆様のご協力を得て技術委員会を運営していきたい。JASS6 改定への意見取りまとめに目を通して、佐藤前委員長を中心とした委員の方が大変な作業をされたことを理解した。まとめた内容を消化して関係先へ提出したい、と挨拶が行われた。

2) 委嘱状交付

大竹副会長より、岩永委員長、船山・西山副委員長および各委員へ委嘱状が交付された。

3) 技術委員会での検討事項について

①JASS6 及び関連指針の次期改定について

資料 No. 2 に列挙された JASS6 及び関連指針の次期改定に対する意見項目に対して評価を行った。主な評価内容は以下の通り。

- ・全構協の構成員全体にとって利益となる項目を選定した (不利益となる可能性のある項目については出さない方向で整理した)。
- ・デジタル化に対する記載は織り込む。
- ・ボルト穴径のように規定がすべての部位に適用される項目については、構造の重要性や部位に応じて規定を分けてもらえるよう意見具申することとした。
- ・鉄骨製作に従事する若い人が戸惑わないように補足を加えてもらえるよう意見具申することとした (例えば、告示と JASS6 の規定の違いなど)。

- ・法的に定められている内容についての改定は学術的根拠を求められるので困難であり、対象外とした。
- ・固有の商品、メーカーの記載は省略することとした。

本日の協議内容を事務局にて次回委員会までに整理し、8/27の理事会前に再度評価することとなった。

再確認した結果は8/27の理事会にて報告し、日本建築学会/鉄骨工事運営委員会へ9月に提出する。

②溶接施工 WG について

- ・入熱パス間温度管理の施工実験について事務局より進捗報告がなされた。
日伸鉄工建設にて柱梁試験体、筑豊製作所（福岡）、高松工業（北海道）、東京組合傘下のRグレードのファブ3社にて平板継手試験体各3体を製作する予定。
- ・前年度WGメンバー（西山副委員長・今泉委員・佐野委員）に引き続きメンバーと参画していただくことになった。
- ・昨年度実施した施工実験の試験体製作をしていただいた日伸鉄工建設の金本様にオブザーバーとして参画していただくことになった。

4) その他

- ①次回開催について 8/19（月）13時よりWEB（Zoom）会議
JASS6 及び関連指針の次期改定について再確認

5) 委員長講評

岩永委員長より、活発な意見交換が行われたことに対して謝意と今後の活動に対しての協力のお願いが述べられた。

以 上

〈 2024～2025 年度 〉
第 2 回 技術委員会 議事録案

1. 日 時 2024年8月19日(月) 13:00～15:30
2. 場 所 Web会議 (Zoom)
3. 出席者 岩永委員長、船山副委員長、西山副委員長、
成澤、今泉、和田、谷本、川野、佐野、山本 各委員
(事務局) 新村、瓜生、安藤、尾下

4. 議事次第

資料No.

- 1) 委員長挨拶
2) 前回議事録の確認
第1回技術委員会議事録案・・・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 1
3) 技術委員会での検討事項について
①JASS6 及び関連指針の次期改定について・・・・・・・・・・ No. 2
4) その他
①次回開催について
5) 委員長講評

5. 議事要旨

1) 委員長挨拶

岩永委員長より、前回の委員会では JASS6 及び関連指針の次期改定に関して活発な意見交換ができたので感謝している。その検討内容を本日精査して理事会に報告したい、と挨拶が行われた。

2) 技術委員会での検討事項について

①JASS6 及び関連指針の次期改定について

資料 No. 2 は前回委員会の協議を踏まえ追記・修正。JASS6 及び関連指針の次期改定に対する意見項目に対して、整理方針と内容を再確認した。

主な確認内容は以下の通り。(前回委員会での確認事項は割愛)

- ・ 工作設備機器や検査機器などに関わる最新の情報を技術指針に記載してもらえるように意見具申する。
- ・ JASS6 と技術指針とで要望事項が重複するところは要望事項を一つにまとめる。
- ・ 技術委員会での判断が難しい項目については理事会に付議しご意見を伺う。(コラムフランジの精度計測について)

本日の協議内容を事務局にて再度整理し 8/27 の理事会にて報告し、日本建築学会/鉄骨工事運営委員会へ提出することとなった。

3) その他

- ①次回開催について 10/23 (水) 14時より、全構協第一会議室&Web会議
溶接施工WG; 検討・試験の進捗報告・結果共有

4) 委員長講評

岩永委員長より、本日も活発な意見交換が行われたことに対して謝意と、今後とも忌憚のない意見交換、情報交換をしていきたいとの期待とお願いが述べられた。

以上

2024 年度 第 1 回 運営委員会 議事要旨

1. 日時 2024 年 8 月 8 日(木) 14:00-17:00
2. 場所 全構協 第 1 会議室
3. 出席者
委員会 妹尾委員長
高田・猪股・松田・川上・松尾・松枝・倭島・渡辺・原田各委員
全構協 永井会長(web)
(事務局) 小貫専務理事・平井事務局長・大原総務部長・滝本
4. 議事次第
 - 1) 永井会長挨拶(web)
 - 2) 委員長挨拶及び委員・全構協事務局紹介
 - 3) 委嘱状交付及び副委員長選出
妹尾委員長から、猪股委員(東北支部/宮城)・松枝委員(近畿支部/大阪)を副委員長に指名。両委員はその場で承諾。
 - 4) 委員会概論説明
委員会規程、組織図を基に委員会体制について事務局から、昨年度の運営委員会実績について妹尾委員長から説明。守秘義務の範囲(どこまで支部会で報告が可能か)について質問があり、理事会の議事録が報告可能な範囲であること、各支部での検討や意見徴収の必要がある議事についてのみ(全構協理事会での確認を取った上で)部分的解除が可能であることを伝える(「支部の位置付け」より)
 - 5) 業績等調査(委員会検討決定事項)について
特定技能外国人材に関する数値を取るための設問を追加。また、自社での生産トン数(年間)・働き方改革施策による影響・賃上げ・人手不足等の設問も新たに設定。9月の理事会後に調査開始、11月の理事会で結果報告、というスケジュールで進める。
 - 6) 検討課題(次回以降の検討事項、委員会体制)について
昨年度までの各委員会・WGの活動結果を踏まえて、今年度以降に取り組むべきことを想定した形で意見交換を行った。共済事業について、運営委員会内で事業の理解から始めて内容検討して行く必要がある、と提案があった。
 - 7) 今後の進め方
8月27日開催の理事会での決定事項(諮問)に対して即対応するため、9月10日に開催することとした。(理事会で具体的諮問が決定しなければ、開催延期)

人づくり研修 1日目 タイムテーブル

時間	内容	時間	内容
12:00	■自己紹介	15:20	■【GM】④プロと違い、自分は何が出来ていないのか？
13:00	■休憩	15:40	■③④グループで発表
13:10	■キャリアアップモデル	16:00	■技能習熟モデル
13:20	■鉄骨造(S造)の魅力	16:20	■【GM】⑤あなたの理想の会社は？
13:50	■熊本城のPV	16:40	■⑤グループで発表
14:10	■【GM】①熊本城PVの感想	16:55	■総括
14:30	■休憩		
14:40	■【GM】②私たちの仕事の魅力		
15:00	■【GM】③プロフェッショナルとは何が出来る人なのか？		



一般社団法人
全国鉄構工業協会
 Japan Steel Fabricators Association

人づくり研修・タイムテーブル

時間	学習内容	時間	学習内容
8:30	■オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・講師紹介 ・アイスブレイク 	12:45	■聴く力を身につける <ul style="list-style-type: none"> ・聴く力が必要な理由を理解する ・聴く上で必要なスタンスを理解する ・5つの聴くスキルを体得する
9:00	■ビジネスマナーを身につける <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、言葉遣いの大切さ ・敬語の使い方(尊敬語・謙譲語) ・文章におけるマナー 	13:45	休憩
10:20	休憩	13:55	■伝える力を身につける <ul style="list-style-type: none"> ・伝える上で注意すべき点を理解する ・伝えるスキルが必要な理由を理解する ・伝えるスキル実践編(PREP法)
10:30	■利益の仕組みを理解する <ul style="list-style-type: none"> ・売上、原価、粗利、経費、利益の構造を理解する ・儲けの仕組みを理解する 	14:55	休憩
12:00	昼食休憩	15:05	■リーダーシップを学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップの3原則 ・リーダーに必要な2つの能力 ・リーダーに欠かせない在り方を理解する
		16:05	アンケート記入
		16:30	終了

【別紙】

2024年7月11日

人づくり研修WG

～ 一人前になったあなたから真の中堅社員へ ～

《《《 人づくり研修 》》》

—— 2024年度 開催日程・場所 ——

支部名	日程 (自)	日程 (至)	会場名称	会場TEL	会場所在地	会場最寄り駅
北海道	10/24(木)	10/25(金)	ホテルモントレエーテルホテル札幌	011-242-7111	北海道札幌市中央区北2条西1丁目1	JR札幌駅
東北	10/29(火)	10/30(水)	ホテルJALシティ仙台	022-711-2580	宮城県仙台市青葉区花京院1-2-12	JR仙台駅
関東	11/26(火)	11/27(水)	アワーズイン阪急	03-3775-7213	東京都品川区大井1-50-5	JR大井町駅
北陸	10/17(木)	10/18(金)	ホテル金沢	076-223-1111	石川県金沢市堀川新町1-1	JR金沢駅
中部	11/28(木)	11/29(金)	ウインクあいち	052-571-6131	愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38	JR名古屋駅
近畿	03/07(金)	03/08(土)	ホテルマイステイズ新大阪	06-6300-5705	大阪府大阪市淀川区西宮原3丁目2-1	JR新大阪駅
中国	10/03(木)	10/04(金)	サン・ピーチOKAYAMA	086-225-0631	岡山県岡山市北区駅前町2-3-31	JR岡山駅
四国	02/22(土)	02/23(日)	ホテルアネシス瀬戸大橋	0877-49-2311	香川県綾歌郡宇多津町浜六番丁81-1	JR宇多津駅
九州	11/06(水)	11/07(木)	オリエンタルH福岡 博多ステーション	092-461-2091	福岡県福岡市博多区博多駅中央街4-23	JR博多駅

(1) 活動経緯

- 6月5日 WG 打ち合わせ
- ・ GCとの取り決め事の検討
 - ・ 下請法調査の現状整理
- 6月20日 聖橋法律事務所へ業務依頼
- ・ (GCとの取り決め事) 見積条件書の作成
 - ・ 下請法およびその調査対応の解説作成
- 7月11日 聖橋法律事務所から見積条件書特約条項 (第1次案) を受領
- 7月22日 WG 打ち合わせ
- ・ 聖橋1次案を検討
- 7月29日 WG 打ち合わせ
- ・ 聖橋1次案の修正案を作成
- 8月1日 聖橋法律事務所と打合せ
- 8月19日 聖橋法律事務所から第2次案を受領

(2) 見積条件書特約条項の位置づけ、内容

[位置づけ]

- ・ 各社の見積条件書に添付する特約条項とする。
(現行の見積条件書に、「図面に関する事項は別紙特約条項による」と追記)
- ・ 見積条件書特約条項には「全構協共通約款」と明記し、全構協構成員に、全社が見積書提出時に足並みをそろえて添付するよう働きかける。
- ・ 見積書提出時には条文修正はしないこととするが、見積書提出後の発注者との協議により個別条文の適用修正は可とする。

[内容]

聖橋法律事務所 第2次案 (別紙)

検討途中案につき取扱いは注意してください

以上

【理24-5-報4⑤】

一次加工品質管理WG名簿

区 分 (支部)			会 社	氏 名	グレード	役 職
WGリーダー	ファブ	(九州)	岩永工業株式会社	岩永 洋尚	H	九州支部長
メンバー	ファブ	(関東)	株式会社日伸鉄工建設	金本 貴範	M	東京都理事
メンバー	ファブ	(中部)	株式会社エヌ・テック	西山 隆志	M	岐阜県副理事長
メンバー	ファブ	(近畿)	上柿鉄工建設株式会社	上柿 範兼	M	奈良県副理事長
メンバー	学識者		名古屋工業大学名誉教授	小野 徹郎		
メンバー	学識者		神戸大学教授	田中 剛		
オブザーバー			株式会社 全鉄評社長	高野 昭市		

全構協・青年部 意見交換会 議事次第 案

(一社)全国鐵構工業協会

場所 鉄鋼会館 801 号室

日時 2024 年 11 月 20 日(水)

時間 13:00~15:50

事務連絡(スケジュール概略、名簿での出席者紹介) → [事務局/2-3分]

1. 全構協 永井会長挨拶 → [永井会長/5分]

2. 全構協 2024 年度事業計画 説明 → [大原総務部長・安藤技術部長/5分]

3. 意見交換会 → 13:15-15:40 [145分]

グループディスカッション

- ・事前に各県代表からディスカッションの題材を集めておく
- ・当日 9 グループに分けてディスカッション(各グループに理事 1 名入る)

4. 結び 永井会長 → [永井会長/約 10 分]

◎ 懇親会 → [司会進行/大原]

時間 16:00-17:30(予定)

場所 鉄鋼会館 802-804 号室

以上

※参考

前回(2024 年 2 月 21 日)出席

青年部(+全青会) … 44 名
全構協(三役・理事) … 12 名
事務局 … 5 名

合計 61 名

【理24-5-報6】

特定技能制度における素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野に
特有の事情に鑑みて定める基準の一部改正（案）について

令和6年7月19日
経済産業省製造産業局総務課

1. 改正の背景

- 令和6年3月29日、閣議決定により、特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する基本方針（基本方針）及び特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針（分野別運用方針）の変更が行われました。
- この際、特定技能制度では、生産性の向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野に限り、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人の受入れが認められているところ、「素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野」の名称を「工業製品製造業分野」に変更するとともに、新たな業務を追加等することとされました。
- これに伴い、以下のとおり、出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令及び特定技能雇用契約及び一号特定技能外国人支援計画の基準等を定める省令の規定に基づき、素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野に特有の事情に鑑みて定める基準の一部改正を検討しています。

2. 具体的な内容

- 分野名を「素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野」から「工業製品製造業分野」へ変更します。
- 分野別運用方針へ新たに追加等した以下の業務区分を踏まえ、特定技能外国人が活動を行う事業所として、以下に関連する産業を行っている事業所を新たに追加します。
＜紙器・段ボール箱製造、コンクリート製品製造、陶磁器製品製造、紡織製品製造、縫製、RPF製造、印刷・製本、鉄鋼、アルミサッシ、プラスチック製品、金属製品塗装、こん包＞
- 特定技能雇用契約の相手方となる本邦の公私の機関の基準として、特定技能外国人が活動を行う事業所が繊維工業、印刷・同関連業、こん包業を行っている場合にあっては、製造業特定技能外国人材受入れ協議・連絡会において協議が調った事項に関する措置を講ずることを追加します。

3. 今後のスケジュール

令和6年7月19日～8月23日 パブリックコメント
令和6年9月下旬 公布・施行（予定）

○経済産業省告示第 号

出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令（平成二年法務省令第十六号）の表の法別表第一の二の表の特定技能の項の下欄第一号に掲げる活動の項の下欄第六号及び法別表第一の二の表の特定技能の項の下欄第二号に掲げる活動の項の下欄第七号並びに特定技能雇用契約及び一号特定技能外国人支援計画の基準等を定める省令（平成三十一年法務省令第五号）第一条第一項第七号及び第二条第一項第十三号の規定に基づき、出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令及び特定技能雇用契約及び一号特定技能外国人支援計画の基準等を定める省令の規定に基づき、素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野に特有の事情に鑑みて定める基準（令和四年経済産業省告示第二百二十七号）の一部を次のように改正する。

令和 年 月 日

経済産業大臣 名

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分は、これに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改め、改正後欄に二重傍線を付した規定で改正前欄にこれに対応

するものを掲げていないものは、これを加える。

改正後	改正前
<p>出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令及び特定技能雇用契約及び一号特定技能外国人支援計画の基準等を定める省令の規定に基づき工業製品製造業分野に特有の事情に鑑みて定める基準</p> <p>(特定技能に係る上陸のための条件)</p> <p>第一条 <u>工業製品製造業分野</u> (以下単に「製造業分野」という。)に係る出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める</p>	<p>出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令及び特定技能雇用契約及び一号特定技能外国人支援計画の基準等を定める省令の規定に基づき、素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野に特有の事情に鑑みて定める基準</p> <p>(特定技能に係る上陸のための条件)</p> <p>第一条 <u>素形材・産業機械・電気電子情報関連製造業分野</u> (以下、単に「製造業分野」という。)に係る出入国管理及び難民認定法第七</p>

十九 細分類二二三二―製鋼・製鋼圧延業

二十 細分類二二三三―熱間圧延業（鋼管、伸鉄を除く）

二十一 細分類二二三二―冷間圧延業（鋼管

、伸鉄を除く）

二十二 細分類二二三四―鋼管製造業

二十三 小分類二二五―鉄素形材製造業

二十四 細分類二二九―鉄鋼シャースリッ

ト業

二十五 細分類二二九九―他に分類されない鉄鋼業（ただし、鉄粉製造業に限る。）

二十六 小分類二三五―非鉄金属素形材製造業

二 小分類二二五―鉄素形材製造業

〔新設〕

三 小分類二三五―非鉄金属素形材製造業

二十七 細分類二四二二―機械刃物製造業

二十八 細分類二四二四―作業工具製造業

二十九 細分類二四三一―配管工事用附属品

製造業（バルブ、コックを除く）

三十 細分類二四四一―鉄骨製造業

三十一 細分類二四四三―金属製サッシ・ド

ア製造業

三十二 細分類二四四六―製缶板金業（ただ

し、高圧ガス用溶接容器・バルク貯槽製造

業に限る。）

三十三 小分類二四五―金属素形材製品製造

業

三十四 細分類二四六一―金属製品塗装業

四 細分類二四二二―機械刃物製造業

五 細分類二四二四―作業工具製造業

六 細分類二四三一―配管工事用附属品製造

業（バルブ、コックを除く。）

〔新設〕

七 小分類二四五―金属素形材製品製造業

〔新設〕

工業製品製造業分野の特定技能制度について

2024年8月

経済産業省

目次

- 1. 特定技能制度の概要**
- 2. 産業分類の追加の検討状況**
- 3. 業務区分の追加の検討状況**

製造業分野における特定技能外国人の人材像・キャリアイメージ：特定技能1号、2号

- 特定技能1号は、相当程度の知識や技能・経験を必要とする業務に従事する人材向けの在留資格。
- 特定技能2号は、自らの判断により高度に専門的・技術的な業務を遂行する人材向けの在留資格。



受入れ機関として、特定技能1号制度で外国人を受け入れるまでの流れ

- 1号特定技能外国人の受入れ検討開始～就労開始までの工程概要は、以下のとおり。

1号特定技能外国人受入れの検討開始

製造業特定技能外国人材受入れ協議・連絡会への入会

受け入れる外国人候補の探索

1号特定技能外国人支援計画の策定

受入れ予定の外国人との特定技能雇用契約の締結

地方出入国在留管理局への在留資格関連の申請

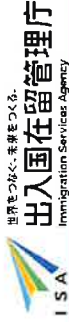
- ・海外から来日する外国人の場合：在留資格認定証明書交付申請
- ・日本国内に在留している外国人の場合：在留資格変更許可申請

【海外から来日する外国人の場合】在外公館への査証(ビザ)申請

1号特定技能外国人の就労開始

製造業特定技能外国人材受入れ協議・連絡会の概要

- 特定技能制度の適切な運用を図るため、特定産業分野ごとに分野所管省庁が協議会を設置している。
工業製品製造業分野では、経済産業省が「製造業特定技能外国人材受入れ協議・連絡会」を設置。
- **特定技能外国人を受け入れる全ての受入れ機関は、協議会の構成員になることが必要。**



特定技能における分野別の協議会について

ポイント

- 制度の適切な運用を図るため、特定産業分野ごとに分野所管省庁が協議会を設置する。
- 協議会においては、構成員の連携の緊密化を図り、各地域の事業者が必要な特定技能外国人を受け入れられるよう、制度や情報の周知、法令遵守の啓発のほか、地域ごとの人手不足の状況を把握し、必要な対応等を行う。

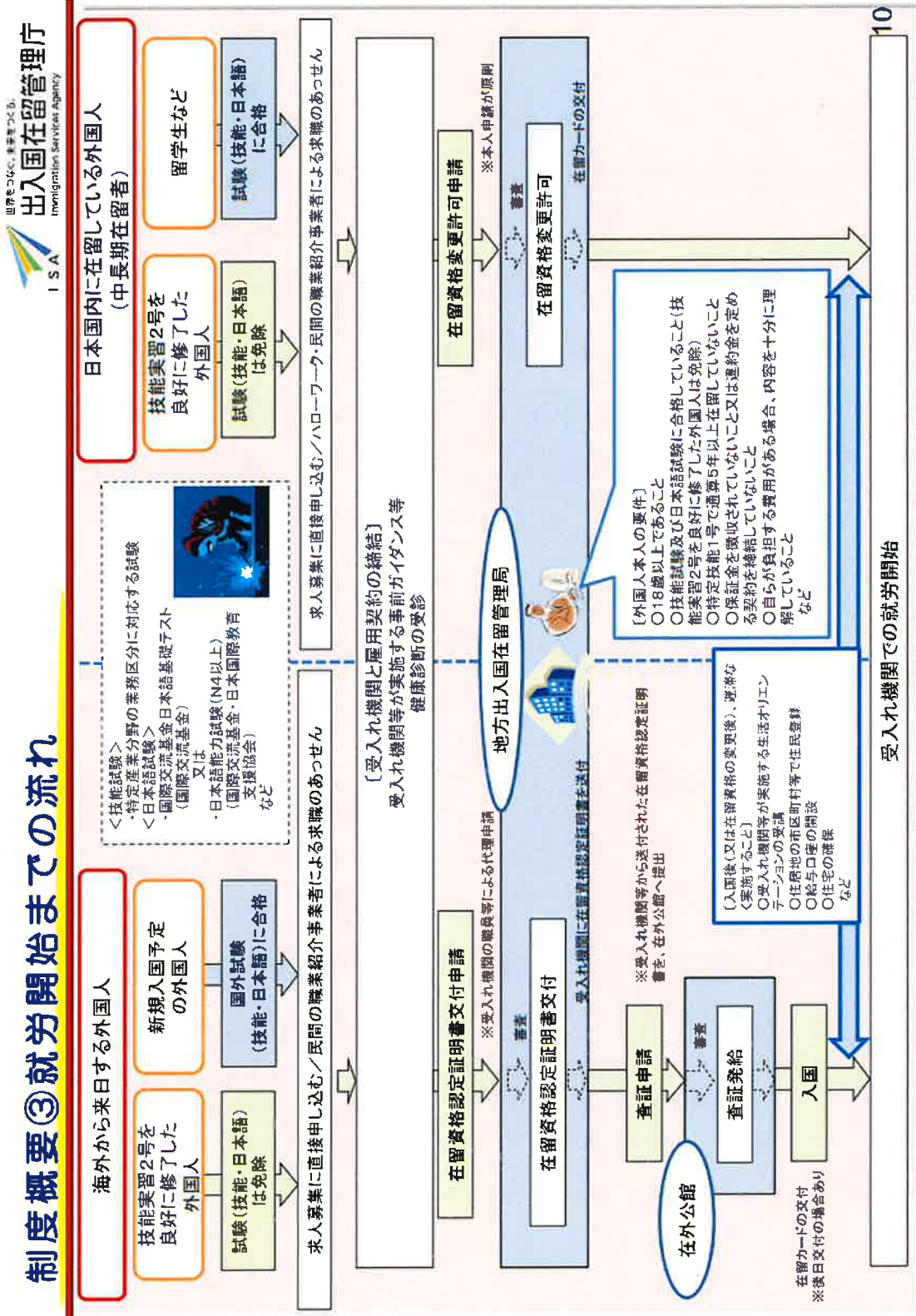
イメージ



(注) 建設分野においては、受入れ機関は建設業者団体が共同で設置する法人に所属することが求められ、当該法人が協議会構成員となる。

外国人からみた特定技能1号での就労開始までの流れ

- 1号特定技能外国人として就労しようとする者は、前もって、**技能・日本語に関する試験の合格か、技能実習2号を良好に修了すること**が必要。



支援計画の概要①

- 特定技能外国人を受け入れる機関（受入れ機関）は、1号特定技能外国人に対して「特定技能1号」の活動を安定的かつ円滑に行うことができるようにするための職業生活上又は社会生活上又は社会生活上の支援の実施に関する計画（1号特定技能外国人支援計画）を作成し、当該計画に基づき支援を行わなければならない。



支援計画の概要①

ポイント

- 受入れ機関は、1号特定技能外国人に対して「特定技能1号」の活動を安定的かつ円滑に行うことができるようにするための職業生活上、日常生活上又は社会生活上の支援の実施に関する計画（1号特定技能外国人支援計画。以下「支援計画」という。）を作成し、当該計画に基づき支援を行わなければならない。
※特定技能2号については、支援義務がない。

■ 支援計画の作成

- ・受入れ機関は、在留申請（※）に当たり、支援計画を作成し、支援計画と併せて提出しなければならない。
※ 特定技能1号に関する在留資格認定証明書交付申請、在留資格変更許可申請等

■ 支援計画の主な記載事項

- ・職業生活上、日常生活上又は社会生活上の支援として必要であると省令で定められた10項目（12ページ参照）の実施内容・方法等
- ・支援責任者及び支援担当者の氏名及び役職等
- ・支援の実施を契約により他の者に委託する場合の当該他の者の氏名及び住所等
- ・登録支援機関（登録支援機関に委託する場合のみ）

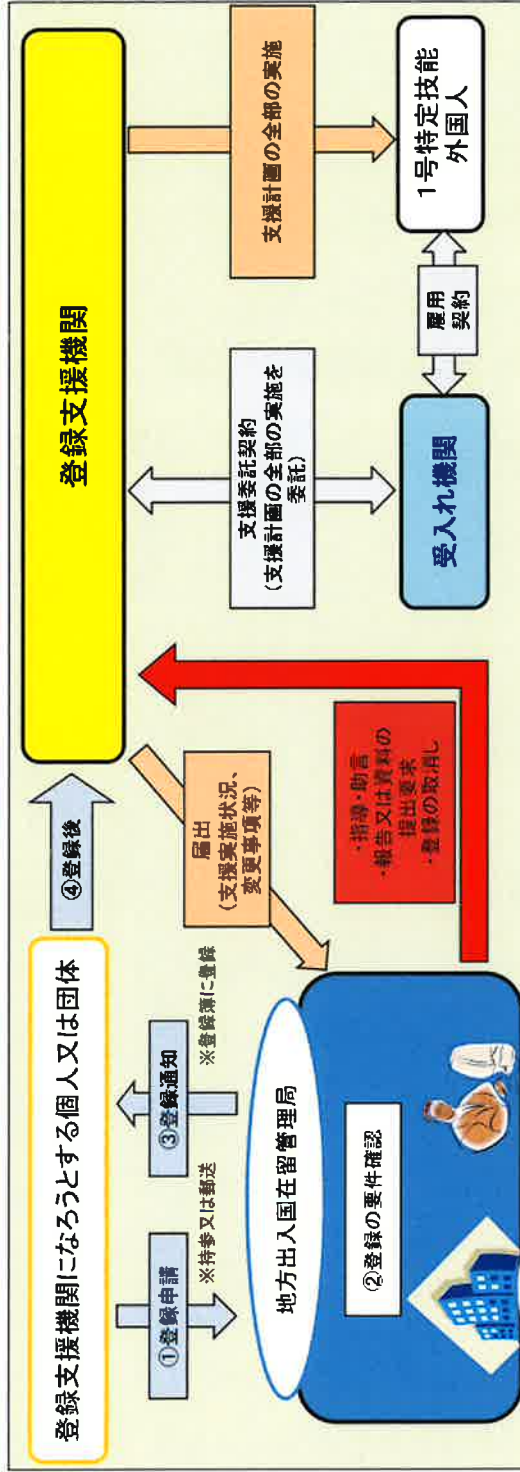
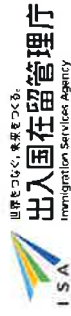
■ 支援計画実施の登録支援機関への委託

- ・受入れ機関は、支援計画の全部又は一部の実施を他の者に委託することができる（支援委託契約を締結）。
- ・受入れ機関が支援計画の全部の実施を登録支援機関（13ページ参照）に委託する場合には、外国人を支援する体制があるものとみなされる。
- ・登録支援機関は、委託を受けた支援業務の実施を更に委託することはできない。（支援業務の履行を補助する範囲で通訳人などを活用することは可能）

(参考) 登録支援機関

- 登録支援機関は、契約により受入れ機関から委託を受けて1号特定技能外国人の支援業務を行う者として、出入国在留管理庁長官の登録を受けた者。
- 各種基準への適合、外国人への適切な支援実施等の義務あり。

登録支援機関とは



登録支援機関とは

- 登録支援機関は、受入れ機関との支援委託契約により、支援計画に基づく支援の全部の実施を行う。
- 登録支援機関になるためには、出入国在留管理庁長官の登録を受ける必要がある。
- 登録を受けた機関は、登録支援機関登録簿に登録され、出入国在留管理庁ホームページに掲載される。
- 登録の期間は5年間であり、更新が可能である。
- 登録には申請手数料が必要である。(新規登録2万8,400円、登録更新1万1,100円)
- 登録支援機関は、出入国在留管理庁長官に対し、定期又は随時の各種届出を行う必要がある。

13

令和6年7月5日

一般社団法人全国鐵構工業協会
会長 永井 毅 様

一般社団法人全国鐵構工業協会中国支部
支部長 妹尾 一人

「鉄骨製作管理技術者」更新講習及び終了考査あるいは一般社団法人鉄骨技術センターが主催するその他試験、講習の対応について（要望書）

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度も7月及び8月に各地で「鉄骨製作管理技術者」更新講習及び更新書類審査が行われています。その際、新型コロナウイルス感染防止のため認められていた在宅学習を感染法上の分類が「5類」となった事により、通常講習に戻すとあります。

在宅学習は社会情勢の中での苦肉の対応であり、新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザ同様の取扱いとなった現在、この措置自体は正当なものであると考えます。

只、5類相当の感染症に罹患した場合、厚生労働省はその症状等によって一定の期間外出を自粛する事を推奨しており、各種学校に於いては5日程度の出席停止が義務付けられ、一般企業に於いても常識としてこの措置が実施されています。

上記の様な措置は一般的な感染症に対する対応であり、この事を鑑みれば公共交通機関を使い大人数で実施される講習や試験へ罹患者が出席する事は社会通念上問題であり、参加を予定していた講習や試験を欠席する事が社会人として良識的対応となると思います。

しかしながら、「鉄骨製作管理技術者」「建築鉄骨検査技術者」資格は鉄骨製作工場にとってなくてはならない資格であり、この資格を喪失する事は性能評価を受ける事が出来ず、会社の存続を危うくする事に繋がりがかねません。従業員数の多いHグレード等であればバックアップの技術者を有す事も可能であり、ひとりの従業員が資格を喪失しても他の従業員が代行する事は可能でしょうが、性能評価に必要な従業員ギリギリで運営しているM以下の工場にとって代替要員を持つ事は大変難しく、講習や試験の別日程への振り替えが無い現状では受講者、受験者がたとえ発熱状態であっても参加を強行せねばならないのが現状であります。

一般論となりますが、昨今に於いて様々な分野で実施される公的機関による講習や試験は、主催者がこの点配慮し、バックアップ的に別日程や予備日を準備する事が常識となってきていると思います。我々鉄骨製造に関わる試験や講習についても日本非破壊検査協会の10年目の再認証試験では有効期限内に2回の受験機会を設けられており、また、日本溶接協会の溶接資格についても有効期限内複数回の受験機会が設定されています。

この様な状況を鑑み、鉄骨技術センターが実施される講習、試験についても代替日程を準

備する事は困難でしょうが、せめて別会場別日程に振り替える等の配慮、あるいは在宅学習の継続等の措置をいただけないものかと考え、この点一考頂く事をお願いいたします。

尚、この振替要望については天変地異による出席困難者に対する人道的措置としても併せてご検討頂ければと思います。一例として平成30年の西日本豪雨に関連する暴風雨により発せられた生命の安全を守る事を優先する特別警報により公共交通機関が運行停止となっている中、振替がきかない事からやむを得ず自家用車で県外の受験会場に出向かねばならないという問題事象が発生していました。この点について当時中国支部の岡山県鉄構工業会は口頭とは言え全国鐵構工業協会に対して厳重な抗議を行い、同様に口頭ですが、この点謝罪を頂き、今後同様の事象が発生した場合配慮を行うという回答を頂いております。

当該の問題について運用上の問題が有るであろう事は理解できますが、中小鉄骨製作工場にとって資格を喪失する事は会社の存続が危うくなる事であり、その点ご賢察の上、ご配慮頂きます事をお願い申し上げます。

尚、2024年「鉄骨製作管理技術者」更新講習及び更新書類審査のご案内の中に「濃厚接触者になり講習に参加出来ない」という記載がありますが、新型コロナウイルス感染症の分類変更と同時に濃厚接触者に関する制限は無くなっているはずで、従って、当該記載は感染症に関わる法律や厚生労働省の見解と異なるものであり、記述自体が不適切ではないかと考えます。この点についてもご検討頂きます事をお願い申し上げます。

敬具

その他の定例報告事項

【理24-5-他1】

構成員登録・取消社数累計表

登録・取消承認日	全構協受付締切日	登録社数	取消社数	合計社数
令和6年3月31日現在 (令和5年度増減数)		21	42	2,151
令和6年5月21日 第1回理事会	3月31日	(0)	(9)	2,151
令和6年6月14日 第2回理事会	6月7日	7	6	2,152
令和6年6月14日 第3回理事会	—	—	—	—
令和6年7月9日 第4回理事会	7月3日	3	2	2,153
令和6年8月27日 第5回理事会	8月21日	5	4	2,154
累 計		15	12	2,154

《グレード別内訳》

S : 8 H : 293 M : 805 R : 559 J : 39 未 : 450 合計 : 2,154

登録構成員増減及び取消理由別社数一覧表

令和6年8月21日現在

区分	登録・取消 承認	増 減								増減差	増 減 後 構 成 員 数
		登録 社数	取消社数								
			倒産	転・廃業	縮小	工場閉鎖	休業	その他	合計		
平成21年度合計	37	11	47	34	3	6	50	151	-114	2,538	
平成22年度合計	23	31	39	33	4	7	52	166	-143	2,395	
平成23年度合計	14	13	45	20	3	3	65	149	-135	2,260	
平成24年度合計	20	9	15	19	2	0	35	80	-60	2,200	
平成25年度合計	13	5	5	13	2	2	15	42	-29	2,171	
平成26年度合計	26	2	6	10	0	0	21	39	-13	2,158	
平成27年度合計	36	0	5	9	0	0	11	25	11	2,169	
平成28年度合計	36	1	6	9	1	0	16	33	3	2,172	
平成29年度合計	56	0	9	7	0	0	11	27	29	2,201	
平成30年度合計	34	2	5	6	0	1	13	27	7	2,208	
令和元年度合計	25	0	10	9	1	0	14	34	-9	2,199	
令和2年度合計	32	0	12	6	1	0	15	34	-2	2,197	
令和3年度合計	27	1	10	7	1	0	11	30	-3	2,194	
令和4年度合計	24	1	14	9	3	0	19	46	-22	2,172	
令和5年度合計	21	1	10	4	1	0	26	42	-21	2,151	
令和6年度	第2回 (6月7日)	7	0	3	1	0	0	2	6	1	2,152
	第3回 ()	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	第4回 (7月3日)	3	0	2	0	0	0	2	2	1	2,153
	第5回 (8月21日)	5	0	3	0	0	1	0	4	1	2,154
	第6回 (月日)										
	第7回 (月日)										
	第8回 (月日)										
	第9回 (月日)										
	第10回 (月日)										
	年度末処理										
6年度計	15	0	8	1	0	1	2	12	3	2,154	
累 計	1,123	502	715	551	131	80	1,211	3,190	-2,067	2,154	

1. 転・廃業内訳

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
転業	0社	2社	4社	0社	0社
廃業	12社	8社	10社	10社	8社

2. グレード別取消内訳

	S	H	M	R	J	未	合計
令和2年度	0	0	14	7	0	13	34
令和3年度	0	2	5	6	0	17	30
令和4年度	0	1	5	7	2	31	46
令和5年度	0	1	11	4	1	25	42
令和6年度	0	0	0	4	0	8	12

構成員登録社数・増減一覽表

(R6. 7. 4~R6. 8. 21)

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回		
北海道	北海道	74	2		2	76		
	東	青森	36			0	36	
		岩手	31			0	31	
		宮城	39			0	39	
		秋田	23			0	23	
		山形	27			0	27	
		福島	62		2	-2	60	
		関東	茨城	60			0	60
			栃木	50			0	50
			群馬	66	1		1	67
埼玉	50			1	-1	49		
千葉	56				0	56		
東京	48				0	48		
神奈川	神奈川		43			0	43	
	新潟		新潟	84			0	84
			山梨	29			0	29
			長野	63			0	63
北	富山	38			0	38		
	石川	32			0	32		
	福井	43		1	-1	42		
	岐阜	71	1		1	72		
中部	静岡	88			0	88		
	愛知	125			0	125		
	三重	60			0	60		

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回	
近畿	滋賀	30			0	30	
	京都	47			0	47	
	大阪	107			0	107	
	兵庫	77			0	77	
	奈良	35			0	35	
	和歌山	35	1		1	36	
中国	鳥取	15			0	15	
	島根	22			0	22	
	岡山	34			0	34	
	広島	80			0	80	
	山口	37			0	37	
	四国	徳島	25			0	25
香川		44			0	44	
愛媛		40			0	40	
高知		22			0	22	
九州		福岡	49			0	49
		佐賀	24			0	24
	長崎	18			0	18	
	熊本	26			0	26	
	大分	20			0	20	
	宮崎	25			0	25	
鹿兒島	鹿兒島	28			0	28	
	沖縄	15			0	15	
合計		2,153	5	4	1	2,154	

構成員登録申請企業一覽表

令和6年8月21日現在
令和6年8月27日決定

(5 社)

都道府 県名	受 付 年月日	構成員登録企業名	代表者名	〒	所 在 地	年間加工 能力	従業員数	グレート	登録番号
1 北海道	R6.7.9	有限会社大滝鉄工	井 口 裕 和	074-0022	北海道深川市北光町2-3-36	750 t	8 人	未	01-278
2 北海道	R6.8.16	有限会社マルダイ大澤建鐵興業	大 澤 司	088-0605	北海道釧路郡釧路町別保原野南24線64-31	1,035 t	19 人	未	01-279
3 群馬県	R6.7.24	株式会社四葉鐵工	長 谷 川 靖	370-1117	群馬県佐波郡玉村町川井25	1,857 t	27 人	未	10-147
4 岐阜県	R6.7.9	有限会社杉山鉄工	杉 山 訓	508-0001	岐阜県中津川市中津川842-101	200 t	4 人	未	21-228
5 和歌山県	R6.8.5	有限会社納庄鐵構	小 藪 文 夫	649-6311	和歌山県和歌山市里90	400 t	4 人	未	30-157
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		
						t	人		

【理24-5-他2】

建築着工面積と鉄骨推定所要量推移
(国土交通省建築着工統計速報による)

2024年8月1日作成

年度	月	全建築物		鉄骨造		鉄骨鉄筋造		鉄骨推定重量計	
		面積	前年同期比	面積	前年同期比	面積	前年同期比	トン数	前年同期比
平成17年度計		185,648	101.6	69,338	99.2	5,468	80.0	7,207,200	98.3
平成18年度計		187,611	101.1	70,187	101.2	6,317	115.5	7,334,550	101.8
平成19年度計		157,219	83.8	61,466	87.6	5,443	86.2	6,418,750	87.5
平成20年度計		151,394	96.3	56,639	92.1	4,604	84.6	5,894,100	91.8
平成21年度計		113,196	74.8	37,589	66.4	2,937	63.8	3,905,750	66.3
平成22年度計		122,281	108.0	40,478	107.7	2,731	93.0	4,184,350	107.1
平成23年度計		127,294	104.1	41,792	103.2	2,610	95.6	4,309,700	103.0
平成24年度計		135,452	106.4	46,257	110.7	2,677	102.6	4,759,550	110.4
平成25年度計		148,461	109.6	52,350	113.2	3,466	129.5	5,408,300	113.6
平成26年度計		130,791	88.1	48,554	92.7	3,019	87.1	5,006,350	92.6
平成27年度計		129,605	99.1	48,304	99.5	2,909	96.4	4,975,850	99.4
平成28年度計		134,236	103.6	49,957	103.4	2,171	74.6	5,104,250	102.6
平成29年度計		133,028	99.1	50,701	101.5	2,788	128.4	5,209,500	102.1
平成30年度計		131,078	98.5	50,048	98.7	1,464	52.5	5,078,000	97.5
2019(令和元)年度計		124,936	95.3	44,928	89.8	1,480	101.1	4,566,800	89.9
2020(令和2)年度計		114,114	91.3	40,218	89.5	1,878	126.9	4,115,700	90.1
2021(令和3)年度計		122,466	107.3	45,580	113.3	1,966	104.7	4,656,300	113.1
2022(令和4)年度計		118,676	96.9	41,946	92.0	2,375	120.8	4,313,350	92.6
20 2 3 年度 ～ 年度 ～	4月	10,298	91.5	3,912	97.0	158	53.7	399,100	95.5
	5月	8,994	92.7	2,874	84.2	150	49.8	294,900	82.7
	6月	9,177	83.1	2,993	70.5	222	170.8	310,400	72.0
	7月	9,261	82.3	3,137	72.1	218	88.6	324,600	72.6
	8月	9,311	89.4	2,905	83.0	160	126.0	298,500	83.7
	9月	9,200	95.0	3,201	99.5	104	140.5	325,300	100.0
	10月	10,859	109.7	4,015	116.3	161	75.2	409,550	115.1
	11月	8,513	89.0	2,774	80.3	79	49.4	281,350	79.6
	12月	8,712	97.2	3,206	100.6	82	57.3	324,700	99.7
	1月	7,954	85.7	3,175	106.2	64	15.9	320,700	100.5
	2月	7,779	86.3	2,972	86.6	55	94.8	299,950	86.7
	3月	8,256	96.0	3,173	118.8	81	36.0	321,350	115.4
	年度計		108,314	91.3	38,337	91.4	1,534	64.6	3,910,400
20 2 4 年度 ～ 年度 ～	4月	10,095	98.0	3,799	97.1	154	97.5	387,600	97.1
	5月	8,353	92.9	2,756	95.9	135	90.0	282,350	95.7
	6月	8,811	96.0	3,138	104.8	98	44.1	318,700	102.7
	7月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	8月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	9月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	10月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	11月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	12月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	1月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	2月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	3月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	年度計		27,259	95.7	9,693	99.1	387	73.0	988,650

(単位) 面積 1,000㎡
前年同期比 %

(注) 鉄骨推定所要量
鉄骨造 ㎡ × 100kg
鉄骨鉄筋造 ㎡ × 50kg

2024(令和6)年度 主要会議日程表

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土											
4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

2024.5.21 現在

- ↓ 夏期・年末年始休日
- ◇ ↓ 土日・祝日
- ◇ ↓ 休日出勤
- ◇ ↓ 振替休日

開催年月日	三役会	理事会	総会	全国理事長会 事務局長会議	委員会	その他	備考
2024年(令和6年)	4月11日 木 12:00			15:00 ※		16:30 懇親会	※全国事務局長会議
	5月14日 火 14:00						12:00 全幹取締役会
	5月21日 火 10:30	14:00 ※					※決算・事業報告・総会招集
	6月14日 金 9:30	11:30	15:00				14:00 全幹取締役会
	7月2日 日 14:00						
	7月9日 日 10:30	14:00					
	8月20日 火 14:00						
	8月21日 水					11:00 技術審議会	
	8月27日 火 11:00	12:00					
	9月17日 火 14:00						
	9月24日 火 9:30	11:30				15:00 賛助会員との懇親会	17:00 賛助会員との懇親会
	10月22日 火 14:30						12:00 全幹取締役会
	11月12日 火 14:00						
	11月19日 火 10:30	14:00					
	11月20日 水						16:00 青年部会との懇親会
	12月12日 木						12:00 全幹取締役会
	12月13日 金 14:00						
2025年(令和7年)	1月17日 金 9:30	12:00		15:00 ※			※全国理事長会
	2月10日 月 14:00						
	2月18日 日 10:30	14:00					
	3月11日 日 14:30						
	3月18日 日 10:30	14:00					12:00 全幹取締役会

*

関連団体	開催年月日	内容
【青年部会】 総会・会長会議	2024年4月20日(土)	東京
	2025(令和7)年度予定	
	2025年4月11日(金)	三役会(12:00) 全国事務局長会議(15:00) 懇親会(16:30)
	2025年5月13日(火)	三役会(14:30) 参考:全幹取締役会(12:00)
	2025年5月20日(火)	三役会(10:30) 理事会(14:00)
	2025年6月13日(金)	三役会(9:30) 理事会(11:30) 総会(15:00) 懇親会(17:00) 参考:全幹取締役会(14:00)

* = 変更箇所

【理24-5-他4】

< 北海道支部 > 状況報告書

2024年(令和6年)7月分

(A)

提出日 令和6年8月19日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
支部	道内各支部活動・行事等	北海道支部(鉄骨部会)活動・行事等
道央	・2日(火) 三役会・役員会 ・26日(金) 例会・ビール会	【会議】 ・30日(火) 第4回役員会 【性能評価】 ・3日(水) 工場審査 1社 ・25日(木) 工場審査 1社
函館	・26日(金) 例会	
室苦小樽	・10日(水) ブロック三役会(web)	
旭川	・8日(月) 営業会議(4社)	
北見	・23日(火) 例会	
帯広	・11日(木) 例会 ・26日(金) ビール会	
釧路		

(B)

支部	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	S・H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
道央	2 ~ 9	1 ~ 5	1 ~ 5	75 ~ 110			○			
函館	2	3 ~ 4	2 ~ 3	50 ~ 100			○			
室苦小樽	6 ~ 9	1 ~ 2	1 ~ 2	80 ~ 100		○				
旭川	5	3 ~ 8	/	70 ~ 110			○			
北見	/	1 ~ 3	/	50 ~ 100			○			
帯広	3 ~ 8	2 ~ 3	1 ~ 2	100			○			
釧路	4	4 ~ 8	/	90 ~ 150		○				

(C)

支部	現状と今後の状況の見通しについて
道央	・山積み及び工場稼働率は、各グレードともに前月とほぼ変わらず。山積みはS/Hで2~9ヶ月、Mは1~5ヶ月、R/J/未は1~5ヶ月。工場稼働率はS/Hは90~100%、Mは90~110%、R/J/未は75~100%。見積は「少ない」が前月と比べて減少し16社で50%。「同じ」が増加し15社で47%。相変わらず「新規・中小物件の見積りが少ない」、「足元の案件が少ない」というコメントが多いが、「来年度に向けての民間中小工事事業が動き出している」などのコメントもある。共同積算:1-7月 69,284t 平年比89% 前年比124%
函館	・山積みは平均すると3ヶ月、稼働率は現在高めで推移している。見積り(中小規模)も複数件出てきてはいるが、全体的に少ない。価格については大きく変わりなし。
室苦小樽	・地元建築関連の見積り案件は、依然として低調。小型案件は出てきているが大型案件は少ない状況。民間案件では価格も下がっている。
旭川	・Mグレードの見通しは、中小物件が決まり9月まで忙しい状況で秋まで確保しており、うち1社は来春まで受注している。Hグレードは12月頃までの予定はあり、その先の見積りは出てきてはいるが決定には至っていない状況。
北見	・夏場以降は小規模物件は多少あるが、これといった物件はない状況。相変わらず図面承認の遅れと変更で苦しんでいる。
帯広	・工場稼働は先月とあまり変化はなく、先の方山積みも低調な状況。材料の値上がりが懸念される。
釧路	・各社、忙しい状況が続いている。物流の2024年問題によりコストアップ、また予定通りに荷物が動きづらくなってきている。

＜東北支部＞ 状 況 報 告 書

2024 年（令和 6 年）7 月分

(A)

提出日 令和 6 年 8 月 7 日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	東北支部活動・行事等
青森県	○7/3 正副理事長会議 ○7/19 積算業務担当者会議・納涼会	○7/22 建専連東北総会、東北地整意見交換会 (仙台)
岩手県	○7/2 正副理事長会議 ○7/3,5,12 前期性能評価 (各 1 社) ○7/9 県南支部会 ○7/19 盛岡支部会 ○7/24 第 3 回理事会、広報委員会	
宮城県	○7/2 役員会 ○7/3,4,8 前期性能評価 (3 社)	
秋田県	○7/17,24,26 工場審査 ○7/25 役員会・代表者会議	
山形県	○7/10 技術・品質サポート制度 (1 社) ○7/2,23 工場審査 (2 社)	
福島県	○7/6,13 実践建築設計 3 次元 CAD 技術講習会 ○7/11 第 2 回理事会 ○7/12,16,18 技術・品質サポート (各 1 社)	

(B)

都道府県	①手持ち工事量 (ヵ月)			②稼働率 (%)	③見積物件の傾向			④工場加工費 (千円)		
	H	M	R・J	稼働率 (%)	多い	普通	少ない	S 造 (H+H)	S 造 (コラム H)	SRC 造
青森県	4～17	2～8	1～3	70 ～ 120			○			
岩手県	3～10	2～9	0.5～3	70 ～ 110			○			
宮城県	5～14	3～6	1～3	60 ～ 100		○				
秋田県	5～6	2～4	1～5	80 ～ 110			○			
山形県	3～17	1～12	1～4	85 ～ 120		○				
福島県	4～9	3～12	1～6	30 ～ 150		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
青森県	稼働率・工事量に大きな変化はないが、県内の見積物件数は依然低調が続き、FAB の景況感も改善の兆しが見えない状況。商社・ゼネコンから、極端な安値情報が出回っているケースがあり、組合員同士で情報を共有し、連携を密にして、無理な指値は避けるよう呼び掛けている。
岩手県	工場稼働率、手持ち工事量、加工費いずれも前月と大きな変化はなし。見積物件数は依然低調であり、特に商社経由の安値情報が出回っている。現在の状況はあと 1 年以上続くとの見方が大勢を占め、大型物件を中心に延期や工程のズレも頻発し、各社稼働の山谷の調整に苦慮している。
宮城県	見積物件数は少しずつ増加している状況。ただし今年の秋口以降の物件は少ない。地元 GC も物件が少ない影響か厳しい単価の指値が増えつつある。目先に捉われて単価を下げる事の無いように注意したい。
秋田県	全般的に物件の遅れや中止が多く工程が掴みづらい状況。物件も少なく単価も下がりつつあるため、今が頑張りどころである。
山形県	県内見積物件数は相変わらず少ないが、久々に大型物件が 1 件発生した。今後の仕事量確保が心配される。
福島県	見積依頼は例年に比べ少ない状況が続いている様子。地元物件は、しばらく低調であり元請の安値競争に巻き込まれやすくなっているため、安易な価格回答は避けたほうがよい。自社の原価管理をもとに値決めしても建設業の管理能力の低下もあり、これまで以上にチェックから図面承認までの遅れも多く、工場の稼働率・利益率に悪影響を与えている。

＜ 関東支部 ＞ 状況報告書

2024年(令和6年) 7月分

提出日 令和6年8月2日

(A)

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	関東支部活動・行事等
東京都	20日 東構協ゴルフコンペ 30日 理事会、M部会 7月 工場審査1社	25日 第2回関東支部会
千葉県	5日(金)三役・支部長会、理事会 26日(金)北部支部会 工場審査1社	
神奈川県	12日 神奈川県予算要望ヒアリング(自民党)、17日 青年部会役員会、18日 事業運営委員会、 24日 総務委員会・役員会 性能評価工場審査1件	
茨城県	1日 外国人不法滞在就労防止対策協議会・総会 8日 水戸市長と語る会 12日 令和6年度中性子産業利用報告会 17日 図面問題要望～営繕課・建設協会・建築士事務所協会・建築士会・JSCA茨城 23日 県知事水戸地区後援会総会	
埼玉県	3日(水) 総務委員会 10日(水) 組合理事会、労務委員会、協力会と共済委員会合同会議 18日(木) PAWG(フェーズDアレー実証実験) 23日(火) 組合会計監査、県東支部会 25日(木) 県北支部会 7月中 工場審査1件	
栃木県	7/2 性能評価サポート、7/5 性能評価審査(1社)、7/11 定例理事会	
群馬県	7/5中央支部会、7/17三役会・役員会、7/24青年部全員協議会、工場審査(4社)	
長野県	6日 構造物鉄工実技検定 7日 構造物鉄工実技検定 20日 UT 実技講習会 22日 性能評価工場サポート 25・26日 中央会事務主任者研修 27日 構造物鉄工学科講習会 " UT 実技講習会 28日 構造物鉄工学科講習会 " UT 実技講習会 29日 性能評価工場サポート	
山梨県	10日 理事会 13日 溶接JIS検定 [教育関係] 19日 中央支部会 23日 青年部会 ・ガス溶接作業主任者試験準備講習(19日) 25日 教育技術委員会 26日経営近代化委員会 ・ガス溶接技能講習 29日 溶接安全委員会 高校6校(甲府工業、韮崎工業、都留興隆館、青洲、農 30日 工場審査(Hグレード1社) 林、城西)	
新潟県	7/17～30 工場性能評価サポート3社 7/31工場性能評価審査 1社 7/23女性部会	

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
東京都	6～10	2～4	1～3	60～120			○			
千葉県	3～12	2～16	2.5～5	70～100			○			
神奈川県	7～11	2～8	1.0	30～110			○			
茨城県	6～12	6～10	2～3	80～100		○				
埼玉県	4～30	1～13	1～4	30～100		○				
栃木県	12	2～7	1～3	60～120			○			
群馬県	4～10	2～9	3～5	80～100			○			
長野県	5～11	2～6	4～5	70～120			○			
山梨県	3.0～13.0	0.4～8.0	2.0～3.0	7B			○			
新潟県	5～14	3～6	2～3	70～100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
東京都	図面の承認遅れ等の影響による工期、製作工程ズレなどで製作調整していた案件が動き始め、年内は製作が間に合わず他社に協力を求めるファブがある一方で、仲間内で仕事を融通し合い仕事量を確保しているファブもある。なお、見積物件は少なく、下落傾向にある単価や材料価格が高止まりするなか、採算を度越した受注をする企業が出てきており、今後の動向から目が離せない。
千葉県	図面承認の遅れ、現場の管理(元請)の能力低下、工期が遅い。物件が少ない。決まり事を厳しくしないでほしい。追加工事分の見積りは早めに提出。新築重量鉄骨の見積りはあまりない。
神奈川県	安値受注が増えている。数社のゼネコン専門工事業部会等に参加したが、「鉄骨屋が勝手に値段を下げている」と言われました。値上げの要素しか見つかからない時勢に破格な値下げはリーマンショックの教訓を生かしていない行動。値下げは簡単だが値上げは業界全体で取り組んでいる事であり、慣りを感じます。県内のRMグレードの状況は中小物件で秋口までの山積みを持つ企業が大半です。Hグレードではおおよそ12か月の山積みとなっておりますが稼働率は90%程度となっております。物件も少なく、鋼材価格も鈍化して値上げの話は無い。
茨城県	現状稼働率70%と少ない。10月以降は100%の稼働率になりそう。年末から年明けについては仕事の引き合いが来ている。その先は不透明です。急な設計変更や工程変更、工事中止などで、上位グレードも振り回されてると聞く。予定している工事はバラバラと半年ぐらいあるが、最終設計図受領になかなか至れずどれも確実に開始進行できるのか不安である。相変わらず図面のチェックが遅く、監督の能力低下が続いています。小規模物件の引き合いが少ない傾向にあります。都内の物件も少ないです
埼玉県	見積り物件数に2極化が生じている。中央ゼネコンなどを客先に持っている組合員は1～2年先の案件があるが、地場ゼネコン中心の組合員は少なくなっている。理由としては施工が建設費の高騰で計画の見直しや発注遅延などが影響しているようで、中央ゼネコンといえども職員不足・人手不足などで受注を制限しているところもあるようで、そのおかげで我々にもそのような気になるところである。
栃木県	・猛暑のため作業効率が下がっている。 ・材料費、消耗品の高騰による財政状況の圧迫が著しい。 ・「鉄骨製作図面問題要望書」は県及び各団体へは8月頭に訪問予定。各市町の担当課には支部単位で対応している。
群馬県	昨年来より鉄鋼材料をはじめいろいろ値上りしてきたが、最近になって副資材も値上げてきたので、これで材料関係の金額がFIXできることを期待します。また、暑い時期を迎え、場内の熱中症対策を進めています。
長野県	・現状、図面決め込みの遅れで加工がズレて稼働率が落ちている。 ・厳しい状況が続くそうだと思う。 ・今年の夏～秋の山積みの薄い所に入れる物件が難しい状況(大手ゼネコン物件は無い) ・安値受注をするFABが出てきている為、今後の受注活動に影響があると考えている。 ・単価の下落傾向が顕著にあらわれている。一ヶ月で単価が下がるほど急激。 ・全体としては仕事量が少なく稼働、加工単価の値下がりが心配である。 ・2024年問題(運搬)は今のところ大きな影響は受けていない。
山梨県	ファブのグレードの高低と大手取引先の有無により手持量も見積件数も差が大きい。2024年問題がらみにより一部で運搬費の臨時費用も発生し始めている。ゼネコンの当初工程に遅延が生じており、運搬直前での延期や自社ヤードでの保管となる場合があり、追加費用が発生している。
新潟県	手持ち工事量が少なくなっている。 地場物件が少ないのでC造単価が厳しくなっている。副資材、消耗品の単価が値上がりしているため、収益が悪化しているとの回答が増えた。

＜北陸支部＞ 状況報告書

2024年（令和6年）7月分

提出日 令和6年8月20日

(A)

① 全構協推進事業の現状		② 支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	北陸支部活動・行事等
富山県	3日(水)工場審査(新規) 1社 8日(月)工場審査(Rグレード) 1社 10日(水)工場審査(Rグレード) 1社 12日(金)中央会・インボイス制度実務対応セミナー 23日(火)鉄骨製作図問題の是正・解消に向けた要望書提出 (宛: 日本建築構造技術者協会 中部支部 北陸部会) 26日(金)建専協・全体会議	24日(水) 第1回北陸支部役員会(金沢)
石川県	2日(火)鉄骨製作図問題の是正・解消に向けた要望書提出(訪問) (宛: 石川県土木部・石川県建設業協会・石川県建築士事務所協会) 2日(火)第3回三役会・第4回理事会 4日(木)技術・品質サポート制度実施 12日(金)第3回青年部役員会 23日(火)工場審査(Rグレード1社) 23日(火)鉄骨製作図問題の是正・解消に向けた要望書提出(訪問) (宛: 日本建築構造技術者協会 中部支部 北陸部会) 31日(水)加賀支部会(小松)	
福井県	1日(月)技術・品質サポート4工場(~17日) 3日(水)総務委員会 11日(木)定例三役会、役員会 19日(金)定例認定部会 23日(火)鉄骨製作図問題の是正・解消に向けた要望書提出 (宛: 日本建築構造技術者協会 中部支部 北陸部会) 26日(金)共同積算委員会 31日(水)工場審査(昇格Rグレード1社)	

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R+J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
富山県	6～8	2～4	1～3	70～100			○			
石川県	6～10	2～3	1～2	80～110			○			
福井県	6～11	2～6	1～2	80～120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
富山県	前にも増して物件の構造やその規模に関わらず、中止や順延・見直しが多くなっているため、先月よりも見積は非常に少なくなってきた。要因の一つとして「建築コストの高騰」が挙げられ、又、人件費・電気料金・輸送費なども値上げはあっても下がることはない状態が続いている。これについてはすぐに解決できる問題ではなく極めて厳しい状況が続いているので、仲間同士情報を密にして信憑性のない話に惑わされず、一致団結して価格を維持していかなばならない。
石川県	先月とあまり変わりはないが、見積もりは企業によってバラつきはあるが全体的には少ない。能登半島地震の復旧については道路の復旧も進み、主要道路となる能登里山海道はすべての区間でほぼ対面通行が可能となった。今後は本復旧に向けて土木工事を中心に工事発注がある見通しだが、コンサルや設計事務所の多忙により工事発注は遅れている状況で建築についてはまだまだ時間がかかると思われる。全体的に仕事は薄いと思われるが、価格を維持していけるように組合員同士で引き続き情報交換を行っていただければと思われる。
福井県	・仕事量稼働率ともに前月に比べ各グレード共大きな変化は見られないが、2024年物流問題に対する関心が高まっている(＝運賃費用の増加が話題に上っている)。 ・見積り物件は極めて少なくなっており、総じて今秋から年末にかけての乗り切り方に不安が多く、組合員同士の協力体制が一層必要な時期に来ていると考えられる。

＜ 中部支部 ＞ 状 況 報 告 書

2024年(令和6年) 7月分

(A)

提出日 2024年(令和6年) 8月 5日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	中部支部活動・行事等
岐阜県	25日(木) 理事会	5日(金) 青年部中部BC 総会 9日(火) 全構協 理事会 出席 23日(火) 中部支部会
静岡県	18日(木) 三役会 24日(水) 県との意見交換会、役員会	
愛知県	2日(火) 女性部会 10日(水) 愛知県建設技術研修会 講師派遣 16日(火) H部会 17日(水) 青年部会 19日(金) 東三河支部会 25日(木) 50th実行委員会(記念誌) 性能評価工場審査 10社	
三重県	24日(水) 第4回理事会 26日(金) 技術委員会講習会 30日(火) 新政みえとの団体懇談会 性能評価サポート 7件	

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
岐阜県	3 ~ 11	2 ~ 7	1 ~ 5	10 ~ 120		○				
静岡県	6 ~ 12	2 ~ 8	2 ~ 6	70 ~ 110			○			
愛知県	9 ~ 20	3 ~ 6	3 ~ 4	60 ~ 120			○			
三重県	8 ~ 12	2 ~ 5	1 ~ 5	83 ~ 110			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に仕事が少なく、予定していた物件が突然2~3ヶ月延びてしまい、やる事が無く困っている。 ・延びていたものがようやくこれから始まる。予定が立たない。 ・図面の決まりが悪いが、建方、納期は変わらない。 ・材料は高値だが、仕事量が少ないので請負金額が下がってきている。 ・鉄骨加工から逸脱せず、業界ブランディングに取り組み、付加価値を高めていくことが大事である。
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の中止と工程の変動が目立つようになってきた。各社穴埋めに苦慮している。また、物件数も少ないので安値受注も出ているようである。 ・今年は普通、来年以降は忙しくなりそうな話が出ている。 ・小規模物件の話がない。夏以降出てきそうだという話を聞くので今後に期待したい。
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度においては受注量は少ない予想です。 ・現在、管理の大変厳しい大型物件で大変手こずっています。 ・見積りは2025年度下期以降が中心。2025年度上期は低調が続くと予想される。 ・現場での耐震・改修工事だけで工場が遊んでいましたが、ようやく工場加工も動き出しました。 ・年内までは通常受注になりました。来年の物件見積り・計画は出てきてはいますが、受注についてはこれからの状況次第だと思います。 ・目先は10月くらいまで、その先は来年の話もあるがまだはっきりとしない。 ・依然として不透明な状態が続いており、物件についても両極化(大型・小型)になっている。 ・最近の動向として550N級の高規格材を使用した物件が増えてきている。
三重県	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的に忙しくなることはあるが、全体的には仕事量は少なく、見通しは相変わらず不透明。 ・着工日が不透明であったり、延期する工事が多い。 ・東海地区で7月以降、50~200tクラスの案件はあるが、年明けの情報がつかめない。 ・大阪はIR関連土木工事が動き出すとのことで、それに伴い対岸の四国でのホテル建設の情報がでてきている。 ・関東方面の仕事は2024年輸送問題もあり、静岡あたりが発注の西限とのことで、物件情報は少ない。

＜ 全構協近畿支部 ＞ 状 況 報 告 書

2024年(令和 6年 7月分)

提出日 令和 6年8月8日

(A)

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	近畿支部活動・行事等
滋賀県	・7/17後期申請に関する説明会(2社)	
京都府	前期工場審査(2社)、7/12AW認定合同受験7/22青年部役員会	
大阪府	前期工場サポート(5社)、前期工場審査(4社)	
兵庫県	・7/5 第2回三役会、第2回理事役員会、新旧理事役員懇親会 ・7/8、7/11、7/12、7/18、7/22、7/24、7/26、7/30、7/31 サポート 計9回	
奈良県	7/9 三役会、理事会 7/11 認定サポート 7/17 南和支部会／青年部定例会	
和歌山県	7/17性能評価サポート(1社)	

(B)

都道府県	①手持ち工事量(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
滋賀県	6 ~ 12	2 ~ 6	1 ~ 3	60 ~ 100			○			
京都府	~ 5	3 ~ 12	1 ~ 4	50 ~ 100			○			
大阪府	6 ~ 12	4 ~ 10	1 ~ 3	40 ~ 100			○			
兵庫県	6 ~ 12	2 ~ 6	1 ~ 3	50 ~ 100			○			
奈良県	~	3 ~ 10	1 ~ 3	70 ~ 100		○				
和歌山県	8 ~ 13	2 ~ 6	1 ~ 3	50 ~ 100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
滋賀県	依然として厳しい状況が続いており、中小を中心とした県内の建築物件数が少ない状況である。物件の中止・延期・見直しもある。建築物件数が少ないことから取り引き先からの指値は厳しく業者間での競争が激しい状況が続いている。需要環境が今後、盛り上がるような感じは無く、秋口に差し掛かる頃に多少改善するという話も有るが望みは薄い。8月益明け以降に需要が若干出てくるとの声も聞くので需要回復に期待したい。
京都府	秋以降の仕事が半分ぐらい埋まりました。年明けからは、見積り依頼はありますが、なかなか決定しません。また、今まで通っていた見積りの下をくぐられて、他社に決まった物件が数件あります。簡単に値下げしないで欲しいです。発注単価が、値下がりにないように業界全体での我慢の時かと思えます。秋以降不透明。これから忙しくなります。現在稼働率75%~85%。少人数の為、とても忙しい。鉄骨加工の職人不足の為、見積を断る状況。年明けの引き合いが少し出てきていますが、全体量が少ないため、指値がかなり厳しくなっています。安値発注していくところも出てきており、先行きの単価に影響が出そうです。9月末ぐらいまでは、工場は稼働しています。段取りしている物件が設計変更等の関係で1~2ヵ月遅れると連絡があり非常にまずい。先走り話を進めても単価が合わずコストダウンの方向で設計変更という物件が数多く出てきているような気がする。2~3ヶ月先まで仕事は決まっていますが、その先は不明確です。同じ物件の見積もり出回っており総物件数少ないのがわかります。9月あたりから仕事予定が入ってはいるが、来年に向けては厳しい状況である。年内受注完了。小規模鉄骨、雑金物工事、改修工事の計画はあるが店舗、工場の新築、増築工事が少ない。設備投資の減少か。
大阪府	手持ちの物件量については、まだまだバラツキや偏りがある中、若干ではあるが見積り件数が増えてきている模様。価格競争に巻き込まれると、指値も厳しいため、見極めが大事で踏ん張りどころである。大手ゼネコンも先を見越してか、簡単には物件に飛び付かず様子を伺っているところもあると聞く。過去の例を教訓に、少し先を見る余裕があるといいのだが。
兵庫県	工場物件の延期や変更が続いており先行きは不透明なまま。新規の案件もあまり出てこない。出てきた案件も他県の企業にとられることがあり、価格の維持が難しくなっている。じわじわと様々なコストが上昇してきており厳しい状況が続いている。
奈良県	仕事量が少なく、受注単価が下がり始めている。中規模物件の見積もりは、出ているように思えます。先の話ですが、「来秋頃まで動かない。」「再来年春まで動かない。」などの話を良く聞きます。工程の短い案件が目立っています。直近の仕事量は確保する事が出来ても、見通しは少ない状況。
和歌山県	県内案件は、公共民間を問わず非常に動きが少ないです。グレード別ではS,Hファブは県外案件を安定的に受注していますが、加工単価の下落基調が続いているようです。Mファブ稼働率は総じて高くない状況です。R,Jファブにおいても同様の状況です。今年度はこの先も物件が少ない状況が続くようですが、来年度、近畿圏外において新規案件が多いという情報もあり、単価の改善を期待しています。

＜ 中国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2024年(令和6年)7月分

(A) 提出日 2024年(令和6年)8月19日

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況	
都道府県	各県組合活動・行事等		中国支部活動・行事等	
鳥取県	9日(火) 19日(金) 23日(火) 26日(金)	東部支部例会 青年部会 工場見学会 工場審査1社 工場審査1社	5日 9日 30日	図面問題について中国地方整備局へ要望 (広島市) 全構協:第4回理事会 第2回中国支部会(岡山市)
島根県	4日(木) 26日(金)	性能評価工場審査 2社(出雲市) 高校生溶接技術競技会 島根県予選(益田市)		
岡山県	4日(木) 13日(土) 18日(木) 22日(月) 24日(水) 26日(金)	工場審査サポート1社 青年部会 工場審査1社 委員会(協力会)(岡山市) 工場審査1社 工場審査1社		
広島県	3日(水) 4日(木) 5日(金) 11日(木) 16日(火) 17日(水) 18日(木) 22日(月)	工場審査サポート1社 工場審査サポート1社 図面問題に係る中国地方整備局への要望に随行(副理事長) 工場審査サポート1社 工場審査サポート1社 工場審査サポート1社 工場審査サポート1社 工場審査1社		
山口県	4日(木) 23日(火) 31日(水)	第2回青年部役員会 鉄骨製作図面問題の是正・解消に向けた要望活動(4団体) 工場審査サポート1社		

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
鳥取県	3 ~ 22	1.5 ~ 6	1 ~ 2	80 ~ 150		○				
島根県	6 ~ 7	2 ~ 5	1 ~ 3	70 ~ 100			○			
岡山県	4 ~ 23	1.5 ~ 7	2	80 ~ 100			○			
広島県	6 ~ 13	3 ~ 9	1 ~ 5	60 ~ 120		○				
山口県	2 ~ 4	1 ~ 4	1 ~ 6	70 ~ 100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
鳥取県	県内ファブ各社の手持ち工事量・稼働率の格差が広がりつつあるが、夏から秋口までの仕事量は確保している状況ではあるものの、現状のところ県内新築工事の見積りは少なく改修工事等があるくらい、年末から来年に向けての景気情報も今のところ低く推移している模様が見えます。先行き不透明感が増してきた中で、これから先も組合員同士の情報共有と、出来るだけ適正価格に近い加工経費の維持を大前提に保ち粘り強い協力的体制の構築を目指していく必要性が、さらに高まってきた状況です。
島根県	Hグレードでは、年内の仕事量は十分にあるが、見積りが少なく年明け以降が不安視される状況である。Mグレードは、年内の仕事量はほぼ確保出来ているが、見積りが少なく受注金額も下降傾向にあり、先行きが不安視される状況である。Rグレード以下の下位グレードでは、引き続き鉄骨加工が少なく金物製作や現場工事中心の状況である。
岡山県	盛夏の頃鉄工所が暇になるのは一種の風物詩であり、一見普通の事と思われる。実際酷暑の中火を焚く仕事である我々にとってむしろ有難い状況であるのかもしれない。しかしながら今年の暇な状況は心穏やかに受け入れられる状況ではないかもしれない。ここ数年確実にバックオーダーを抱えていたHグレードが枯渇状態になり、M以下も鉄骨以外の製品で凌いでいるのが現状である。秋以降の繁忙期に期待したいところであるが、これについても期待薄であり、特に地方では建築予定事業が極めて少ない状況である。価格維持を頑張ろうというレベルではなく生き残ろうというレベルのアラートが発生しているのが現状であり、全国レベルで気を引き締める時と考える。
広島県	・稼働率90%以上の工場が86%と、全体的に高い稼働率が維持されているが、一部に50%と低い稼働率の工場もある。 ・手持ち工事量は、Hグレード3社が全て6か月以上であるのに対し、Mグレード以下の19社中16社が6か月未満、うちRグレードの6社中5社が3か月未満と規模による格差が大きい。 ・見積り物件については、6月調査で3社あった「多い」はなくなり、増加傾向が少し弱まった感があるが、「普通」が57%と最も多く、秋ごろには一定の仕事量が期待できるとの声が出ている。
山口県	今月のHグレードは先月同様に稼働率は良かった。見積りは先月より若干増えたものの通常と比べると2割程度で少ない状況が続いている。来年は工事があると言われていたが、いつ頃から工事があるのかはっきりした情報が見つからないため、先々の不安が解消できない。M・Rグレードは現状忙しいと話すファブが多いが、残業するほどではなく変わらず低調。小型案件が多く、客先からの図面承諾が遅く工場内の段取りに苦慮していると話すファブもいる。見積りが少ない状況が続いており下期にかけても既存得意先の案件情報が少なく苦戦が予想される。また、受注物件の値引き幅が大きくなるなど受注金額が厳しい中、8月から値上げをアナウンスされているものが大変多く対応に苦慮している。値上げの原因としてトラックドライバーの確保難を挙げているものがほとんどで今後の物流の変化が危惧される。今は値崩れを起こさないよう辛抱するしかないと思っている。

＜ 四国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2024年(令和6年) 7月分

(A) 提出日 令和6年8月19日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	四国支部活動・行事等
徳島県	4日(木)情報交換会・理事会 3日(水)・4日(木)・5日(金)建築鉄骨検査技術者 超音波 学科 4日(木)・5日(金)建築鉄骨検査技術者 製品 学科 10日(水)工場審査 19日(金)・22日(月)・23日(火)非破壊検査技術者UT1 31日(水)鉄工技能検定学科試験対策(1級・2級)	◆四国支部会 日時:7月17日(水) 場所:愛媛県四国中央市グランフォーレ 議事:①全構協理事会報告 (理事会代理出席者・人づくり研修・理事会活動 テーマ等について) ②全構協各委員会報告 ③四国支部「運搬に関する見積条件書」 作成について ④今年度四国支部交流会について ⑤四国地区高校生溶接競技会(来年度) 対応WG立上げについて ◆四国地区高校生溶接競技会講演(実演) (参加高校生・引率教員向け鉄骨・非破壊検査PR) 日時:7月24日(水) 場所:愛媛県新居浜市ものづくり産業振興 センター講義室 講演:ロボット溶接機のリモート実演と 非破壊検査業務について
香川県	3日(水)役員会議 10日(水)大日本塗料打合せ 11日(木)工場審査(2工場) 12日(金)工場審査(2工場) 23日(火)富士鋼材㈱工場見学・勉強会	
愛媛県		
高知県	16日(火)工場審査サポート 19日(金)理事会 20日(土)焼抜き栓溶接講習会 27日(土)工場審査サポート	

(B)

都道府県	①受注物件件数(ヵ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
徳島県	3 ~ 8	0.5 ~ 3	1.5 ~ 3	70 ~ 100			○			
香川県	3 ~ 6	2 ~ 3	1 ~ 3	90 ~ 110			○			
愛媛県	6 ~ 9	3 ~ 6	3 ~ 6	50 ~ 100			○			
高知県	6 ~	2 ~ 6	1 ~ 3	70 ~ 100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
徳島県	材料、溶材等副資材の高騰が止まらず、FAB業界は立替費が大きい分、影響が大きい。見積りが少なく、仕事量の確保が厳しい。関西でも安価受注する業者が多くなっているが、適正価格の受注を心掛けたい。連日の酷暑の中、社員の体調管理、熱中症予防に努めている。
香川県	依然として県内物件は、少ない状況が続いており、現段階のゼネコン・設計事務所の見積もり件数も少なく今後の見通しも不透明である。従って、商社・鋼材会社を経由しての県外物件の加工協力で稼働率を確保しているFABが多く、この傾向は今後も続くと思われる。また、運送面など価格が高騰する中、価格面も下降傾向にあり組合間の更なる情報共有・協力が必要となる。
愛媛県	受注状況について県内物件が多いJ~Mグレードで年内一杯から年明けまで、更には春先までの話を進めているとの報告があり、地場物件は少ないとの話を聞いていたが、受注量・受注単価は別としても、とりあえず各グレードとも当面の受注量を確保出来ている。Hグレードでは来春まで確保し、その先の話を今進めている。稼働率については操業時間内100%以内がほとんどで、50~70%操業の工場もあった。また残業操業する工場はほとんど無く、昨年度前半まではHグレードを中心に残業操業する工場が多かった事を考えると、この1年間の景況の厳しさが伺える。
高知県	見積り件数は先月、先々月と変わらず少ない状況が続いている。価格も弱含みであり先行き不安。

＜九州支部＞ 状況報告書

2024年度(令和6年度) 7月分

(A)

提出日 令和 6年 8月 5日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	九州支部活動・行事等
福岡県	・7/4 性能評価工場審査(Hグレード1工場) ・7/10 性能評価工場審査(Mグレード1工場) ・7/17 定例理事会、例会(全体会議) ・7/18 青年部役員会(WEB)	・7/11 全構協九州支部 JSCA九州支部、国土交通省 九州地方整備局へ 鉄骨製作図問題の是正・解消に向けたお願い (要望書の提出) ・7/23～27(5日間) NDIレベル1 基礎講座講習会 ・7/29 全構協九州支部 第4回支部事務局Web会議
佐賀県	7/1・5 工場審査サポート 7/2・4・9 工場審査(M2社、R2社) 7/16 鉄骨製作図問題の是正・解消に向けた要望活動の実施 7/23 第3回 定例理事会	
長崎県	7/2 長崎県建設産業団体連合会 意見交換会・理事会・総会 出席、7/3 臨時理事会、7/10 総務・経営対策委員会、7/19 理事会・例会、7/30 長崎県建設専門業種団体協議会 理事会 出席	
熊本県	7/5 青年部会幹事会 7/17, 24, 25工場審査 7/2,16 認定サポート部会 7/30 理事会・定例会	
大分県	7/11, 7/16鉄骨図面は正要望陳情活動(理事長・副理事長) 7/12第2回青年部会、懇親会 7/25三役会、理事会、認定部会(対面・WEB併用)	
宮崎県	7/5 新規会員勧誘活動 7/16・18・22・26 工場パトロール(6社) 7/26第2回理事会・都城地区交流会	
鹿児島県	7/9性能評価支援パトロール 7/19技術委員会、青年部会役員会 7/26総務・経営対策合同委員会	
沖縄県	・7/2日:定例理事会、17日:中央会主催 組合役員対象セミナー、26日:営業部会・懇親会、30日:青年部会	

(B)

都道府県	①手持工事量(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
福岡県	3 ~ 12	2 ~ 3	1 ~ 2	80~100			○			
佐賀県	6	1 ~ 5	1 ~ 3	60~100			○			
長崎県	4 ~ 12	3 ~ 6	2 ~ 3	60~100		○				
熊本県	7 ~ 8	3 ~ 7	3	93			○			
大分県	5 ~ 8	3	—	60~100			○			
宮崎県	6 ~ 12	1.5 ~ 6	0.8 ~ 2	50~100		○				
鹿児島県	3~12	0.5~6	1~2	30~100			○			
沖縄県	2 ~ 3	1 ~ 3	1 ~ 3	80~100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
福岡県	・各社仕事量にバラつきがあり、今後の見通しが不透明。
佐賀県	・元請の図面チェックバックが遅い。現場工程に間に合わせるため残業せざるを得ない。 ・受注量が少なく厳しい状況。他社の製作応援で仕事を確保している。
長崎県	各社仕事量はばらつきが大きい。地域も同様。 気候変動で熱中症対策、効率の低下が堅調である。 毎回同様施工図の承認およびチェックバックが遅い。
熊本県	見積が少ない。公共工事が少ない。 中小物件が少ない。 副資材が高くなった。 運送費が高くなる。 図面の承認が遅いので、予定より作図工程が遅くなり工場の工程がうまく流れない。
大分県	◎物価上昇で計画変更や見直しが多く物件の動きが悪い。見積が少なく先行き不透明。◎年末年始にかけて物件が重なりそうな話がある。来年は忙しくなるのでは。大型物件も小型物件も増加してきている印象。
宮崎県	・中小案件が少なく、改修工事(半導体工場)の仕事をするなどして工場の稼働を調整している会社も数社ある。 ・Hグレードは8月以降忙しくなる見込みだが、全体的に仕事量は少ないようだ。 ・見積件数、工場稼働率は増加傾向にある。
鹿児島県	M・Rグレードでは工場稼働率が落ち込んでいる。徐々に小規模工事が出て来てはいるが、人材不足・図面遅延の影響等もあり見通しは楽観出来ない。
沖縄県	・見積もりが少ない。特に公共物件がない。加工予定物件のずれ込みにて工場稼働率が非常に高いファブもある。 躯体付属金物等や30t未満の小規模が多くなっている。